

富士河口湖高校同窓会だより

山梨県立富士河口湖高等学校
同窓会事務局

河高北陵館通信

Vol.31

〒401-0301 山梨県南都留郡富士河口湖町船津 6663 - 1 TEL 0555-73-2511 FAX 0555-73-2513 http://www.mfi.or.jp/kawakou/

同窓会とは

同窓会長
大石 秀一(二期生)



河高は1977年の開校から37年が経ち、今春は35期生が卒業、38期生が入学します。卒業生総数は1万人を越え、社会の様々な分野で中核人材として活躍しています。一方、日本社会の人口減少の中で河高も生徒数が減少、いずればクラス数減も見込まれます。社会環境の変化による影響はある程度は避けられないものですが、母校である河高が、これからの富士北麓地域における重要な人材輩出拠点であり続ける事を願っています。

さて同窓会の活動のメインは毎年一回、7月に行う年次総会です。1999年の第20回総会を機に1期生から順番に卒業後20年目の学年が当番幹事となり、総会や記念行事の企画・運営を担当します。

これまで、夜回り先生こと水谷修氏の講演「こどもたちへ」アルビノの野口健氏の講演「富士山から日本を変える」、県産ヒノキの積み木を富士河口湖町の未来創造館への寄贈、昨年はプロ野球解説者の工藤公康氏による講演「あきらめない心」など、様々な行事を開催してまいりました。当番幹事が同じ学び舎に過ごした仲間と旧交を温めつつ話し合いを重ねることで内容を決めていきます。今年の幹事(16期生)の皆さんには、思い出に残る総会となることを期待しています。

また記念行事のほか、体育館の組立ステージや遠征用のマイクバスなど、母校の施設改善や活動支援を行ってきました。今後も、同窓生相互の親和を深め、母校の事業を賛助し、地域文化の発展に貢献してまいります。今後とも関係者の皆さんのご理解とご協力をお願い申し上げます。

仰峰不屈



本校野球部が春季関東高校野球県予選で準優勝し、十二年ぶりの関東大会出場を果たした際には、同窓会員の皆様から熱き応援と温かい御支援をいただき、心より感謝申し上げます。

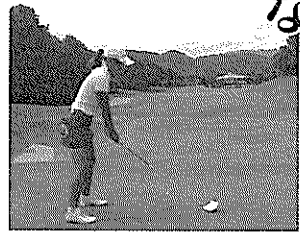
今年はこの他にも多くの分野で輝かしい成果を上げた生徒がいましたので、二期生の終業式で次のような訓話をしました。

「仰峰不屈」の校訓を胸に秘め努力し、高い目標を成し遂げた生徒たちが本校の歴史の中で数多く育っています。その人たちの中で全国第一位となった生徒やチームの栄光を称えるため、その名と記録を刻んだ石碑が玄関前のロータリーにあります。今年その石碑にまた一人の名が刻まれました。国体漕艇競技で二位となった木下美奈さんです。木下さんの栄誉は河高漕艇部全体の栄誉であり、河高全体の喜びでもあります。永く栄誉を称え、喜び合いたいものです。

この他にも、例えば、全国総合文化祭長崎大会郷土研究部門で全国二位に輝いた社会科学部の諸君、国体力又一競技で全国上位に名を連ねた小林裕弥君と渡邊えみ里さん、「Doodle4Google」というロゴデザインコンテストで約十一万点の作品中全国第二位に選ばれた三浦早紀子さん、「第十五回酒折連歌賞」で全国三万点以上の作品中の最優秀作品五五五の二つに選ばれた勝俣麗奈さんなど輝かしい成果を上げた生徒たちがいます。

プロゴルファーになってからの夢

33期 長田 若菜



私が女子プロゴルファーの世界に仲間入りしてから約二年が経とうとしています。この二年間でレギュラーツアー一試合、ステップアップツアー一試合、プロアマの試合など、約二十試合ほど出場しました。最高成績は三十一位タイとプロの世界の厳しさを痛感しています。また、好きなことを職業にできた幸せも感じています。一方で「プロ」と名がついていくプレッシャーを感じることもありました。

プロになってから学生時代には経験したことのないことがたくさんありました。まず、いろいろなプロとラウンドして私は飛距離が周りのプロより劣っていることを一番感じました。飛距離が出なくてもアプローチ、パターで頑張るゴルフが私の持ち味です。しかし、周りを気にしすぎて自分のゴルフを見失ってしまいました。また、

プッシャー十四試合に出場しましたが、最高成績は三十一位タイとプロの世界の厳しさを痛感しています。また、好きなことを職業にできた幸せも感じています。一方で「プロ」と名がついていくプレッシャーを感じることもありました。

プロになってから学生時代には経験したことのないことがたくさんありました。まず、いろいろなプロとラウンドして私は飛距離が周りのプロより劣っていることを一番感じました。飛距離が出なくてもアプローチ、パターで頑張るゴルフが私の持ち味です。しかし、周りを気にしすぎて自分のゴルフを見失ってしまいました。また、

せざるを得なくなりました。とがずと夢でしたが、そこが私のゴールではなく新たなスタートです。昨年、二〇二〇年に東京オリンピックが開催されることになったこと、怪我をして試合を棄権したことが、これらの経験は決して無駄ではなかったと思います。今年もステップアップツアーが中心となり、自分自身の経験を活かして自分のゴルフをするだけでなく成績でも応援してくれる方々に良い報告ができるように頑張りたいと思います。

プロゴルファーになること

今年の同窓会総会・懇親会は
2014年7月5日(土)
開催決定!!

講演会 於 さくやホール
ミュージシャン・マルチタレント
ジャーナリスト・相撲評論家
デーモン閣下 ※予定

名が刻まれました。国体漕艇競技で二位となった木下美奈さんです。木下さんの栄誉は河高漕艇部全体の栄誉であり、河高全体の喜びでもあります。永く栄誉を称え、喜び合いたいものです。

この他にも、例えば、全国総合文化祭長崎大会郷土研究部門で全国二位に輝いた社会科学部の諸君、国体力又一競技で全国上位に名を連ねた小林裕弥君と渡邊えみ里さん、「Doodle4Google」というロゴデザインコンテストで約十一万点の作品中全国第二位に選ばれた三浦早紀子さん、「第十五回酒折連歌賞」で全国三万点以上の作品中の最優秀作品五五五の二つに選ばれた勝俣麗奈さんなど輝かしい成果を上げた生徒たちがいます。

「仰峰不屈」のスピリットは、わが河高の風土です。河高生全員が共有する精神的財産です。河高生たちは高い理想を持って健やかに、のびやかに輝いてゆく生徒たちであります。これからも不屈の精神で高い目標に到達すべく努力していきましょう。

創立三十七年目の今年も、在校生たちは皆、その個性と才能を磨きながら、好学習、真摯敢闘の精神で文武一体の理想を求めて充実した学校生活を送っています。同窓会員の皆様の温かい御支援と御指導をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、朗報をお伝えします。本校第十代校長、元教育長の眞田良一先生が本年度の県政功績者として表彰されました。心からお祝い申し上げます。

この度、第35回山梨県立富士河口湖高等学校同窓会実行委員長を拝命しました。16期生の井原悠紀(いはら ゆうき)と申します。早いもので河高を卒業して20年が経ち、今回実行委員長のお話をいただき、河高のお役にたてればとの想いでお引き受けしました。

簡単に自己紹介をさせていただきます。1年生の時の担任は、島立先生。2・3年生の時は佐藤正俊先生とすばらしく個性的な先生方(特に1年生の時の副担任由井正昭先生)に受け持ってもらった。また友人にも恵まれ、楽しくそして充実した3年間を過ごすことが出来ました。

現在の自分があるのは富士河口湖高校の先生方、そして富士河口湖高校で出会

えた、たくさん仲間たちのおかげだといつも感謝をしています。

現在、私は、地元の忍野村で忍野村役場に勤務しています。たかが公務員が伝統ある富士河口湖高校の同窓会実行委員長をお受けして良いのだろうか、自身は大変不安に思っています。ですが、受けたからには母校のため、同窓会のため、16期生の皆様と協力して、身を粉にして一生懸命務めていきますのでよろしくお願ひします。

詩人の石川洋さんが人生にとって大事なことは、「嘘のつけない親をもつこと」「原理原則を教えること」「自分を褒めてくれる先生をもつこと」「叱つてくださる先輩をもつこと」「自分より優れている後輩をもつこと」「品性を高め



河高同窓会
ホームページを
是非ご覧ください。